



LETTER OF CONFORMANCE

Statement No.:
PRJN-436726-2022-AST-JPN-01

株式会社 明電舎 MEIDENSHA CORPORATION

〒141-6029 東京都品川区大崎二丁目 1 番 1 号 ThinkPark Tower

株式会社 明電舎が三井住友銀行をエージェントとして締結するシンジケーション方式による 2022 年 9 月 22 日付コミットメントライン契約（サステナビリティ・リンク・ローン）は、サステナビリティ・リンク・ローン原則(SLLP、ローンマーケットアソシエーション/LMA 他 2022 年)及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン 2022 年版(SLLGLs、環境省 2022 年)に基づき設定された要求事項(DNV 評価プロトコル)を満たしており、適切に設定された KPI に対し、野心的なサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPT)を達成することを奨励するローンであることが確認された。

本適合書簡は、以下のスコープに対して有効である：

- 対象組織：株式会社 明電舎
- 対象融資：サステナビリティ・リンク・ローン（エージェント：三井住友銀行）
- 対象活動：上述の原則及びガイドラインに基づくサステナビリティ・リンク・ローンに関連する活動

Place and date:
Kobe, 21 September, 2022

For the issuing office:
DNV Business Assurance Japan K.K.
Sannomiya Chuo Bldg. 9th Floor,
4-2-20, Goko-dori, Chuo-ku, Kobe 651-0087

Naoki Maeda
Management Representative

About DNV

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社は独立した第三者評価機関として、評価サービス提供に関連し、株式会社 明電舎とは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、我々の評価はここに表記される対象組織から提供された情報が正確であることを前提にしており、提供された情報の正確さについて監査やテストを行いません。この評価結果は、融資の財務的なパフォーマンス、いかなる投融資の価値、もしくは長期的な ESG パフォーマンス達成の確約を提供するものではありません。

サステナビリティ・リンク・ローン
DNV 評価プロトコル(要求事項)*1とDNV 評価結果

*1：サステナビリティ・リンク・ローンDNV 評価プロトコルは、SLLP(2022年)及びSLLGLsを基に設定された5つの要求事項で構成されています。

No.	要求事項 (Requirements)	DNV 評価結果 (Findings)
1	<p>KPIの選定 Selection of Key Performance Indicators (KPIs)</p> <p>a) 重要性(Material)</p> <p>i. 借り手のサステナビリティ・パフォーマンスは、外部または内部のサステナビリティ KPI を使用して測定される。KPI は、借り手の中核となるサステナビリティ戦略及びビジネス戦略にとって重要であり、業界セクターの関連する環境、社会、及び/またはガバナンスの課題に対応し、経営陣の管理下に置かれるべきである。KPI は、借り手の現在および/または将来の経営にとって高い戦略的重要性があるものとすべきである。</p> <p>ii. 借り手は、KPI が選定された根拠とプロセス、および KPI がサステナビリティ戦略にどのように適合するかを貸し手に明確に伝えることが推奨される。</p> <p>b) 測定可能であること(Measurability)</p> <p>i. KPI は、一貫した方法論に基づき、外部検証や、ベンチマークを行うために測定可能または定量可能な指標とすべきである。つまり、SPT の野心度合いを評価を容易にするために、外部の参照または定義を可能な限り使用すべきである。</p> <p>ii. 可能であれば借り手は、過去に開示された年次報告書、サステナビリティレポート、またはその他の非財務報告にすでに含まれている KPI を選択して、貸し手が選定した KPI の過去のパフォーマンスを評価できるようにすることが推奨される。KPI が過去に開示されていない状況では、借り手は、可能な範囲で、少なくとも過去3年間をカバーする過去の外部検証済み KPI 値を提供すべきである。</p> <p>c) 明確な定義(Clear Definition)</p> <p>i. KPI の明確な定義は、適用可能な範囲または境界、および計算方法を含めて提供されるべきである。</p>	<p>a)-i：明電舎は以下を KPI として選定しています。</p> <p style="text-align: center;"><u>温室効果ガス(GHG)の排出削減(国内)</u> <u>排出 (SCOPE1+2) 総量削減：-5%(2019 年度比)</u> (t-CO2e/年度)</p> <p>DNV は明電舎の選定した KPI が組織の中核となる環境への取組であること、またビジネス戦略に関連していることを確認した。</p> <p>a)-ii：DNV は明電舎と SMBC が ESG 評価融資に対する意見書を通じて、必要な情報が伝達されていることを確認した。</p> <p>b)-i：DNV は、KPI が一貫した方法論に基づいて測定可能であり、外部検証により確認されることを確認した(評価基準：ISO14064)。</p> <p>b)-ii：DNV は、KPI がこれまでも統合報告書等で開示され、それは外部検証されていることを確認した。</p> <p>c)-i：DNV は、KPI の計算が明電舎及び国内のグループ会社 23 社を対象とし、該当年度(4月~3月)の期間、エネルギー起源の CO₂ 及び関連する GHG 排出に基づき、生産統括本部 安全環境管理部にて算出されることを確認した。</p>
2	<p>SPTの測定 Calibration of Sustainability Performance Targets (SPTs)</p> <p>a) 有意義な目標設定-1 (Meaningful)</p> <p>i. SPT は、借り手のビジネスにとって野心的、現実的かつ有意義であり、借り手の包括的な戦略的なサステナビリティ/ ESG 戦略と一致するべきである。</p> <p>b) 有意義な目標設定-2 (Meaningful)</p> <p>i. SPT は、各 KPI の重要な改善を示し、“従来通りの事業 (Business as Usual)” における軌道を超えるべきである。可能であれば、ベンチマークまたは外部参照と比較されており、ローンの実行前(または実行と同時に)に設定された、予め定義されたタイムラインで決定されるべきである。</p> <p>c) 目標のベンチマーク(Benchmark)</p> <p>目標設定は、ベンチマークアプローチの組み合わせに基づいて実施すべきである。</p> <p>i. 可能な場合、選定した KPI で最低3年間の測定実績があり、借り手自身のパフォーマンスが推奨され、可能な場合は、将来的な指針(ガイダンス)を示す KPI であること。</p> <p>ii. 比較可能または利用可能な場合は借り手の同業者に対する、または、業界あるいはセクター基準に対する SPT の相対的な位置づけ</p> <p>iii. 科学的根拠に基づくシナリオなどの体系的な参考事例、または絶対レベル(炭素収支など)、公式の国/地域/国際目標、認知されている最善の技術(Best Available Technology)あるいはその他の近い技術。</p> <p>d) 目標の開示 (disclosures)</p> <p>目標設定に関する開示は、以下を明確に参照すべきである。</p>	<p>a)-i：DNV は、SPT が明電舎のビジネスにとって野心的、現実的かつ有意義であり、明電舎の環境への取組(環境基本理念、環境ビジョン等)と一致していることを確認した。</p> <p>b)-i：DNV は、SPT が KPI の重要な改善を示すことを、2021年5月に取得した SBT 認定による「2°C目標を十分に下回る程度に意欲的である」という観点から確認すると共に、どのようなタイムラインで KPI の改善を進めるかについて、具体的な計画と共に確認した。</p> <p>c)-i：DNV は、明電舎が KPI について 2017 年度以降 5 年間の測定実績を有し、SBT に基づき将来の指針が示されていることを確認した。</p> <p>c)-ii：DNV は、SPT が SBT に基づく 2030 年 30%削減(2019 年度比)と概ね整合し、実現性と野心性を兼ね備えている目標であることを確認した。</p> <p>c)-iii：DNV は、KPI 及び SPT が SBT により認定されていることから、科学的根拠のある指標及び目標であると判断した。</p> <p>d)-i：DNV は目標の達成(a)-i 参照)、トリガー事象(a)-i 参照)、及び SPT 設定の頻度のタイムライン(c)-i 参照)が明確になっていることを確認した。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> i. 目標の達成、トリガー事象、および SPT 設定の頻度のタイムライン ii. 必要に応じて、KPI の改善のために選択された検証済みのベースラインまたは参照ポイント、および使用されるそのベースラインまたは参照ポイントの理論的根拠 iii. 必要に応じて、ベースラインの再計算または試算調整の考慮が必要となる状況 iv. 必要に応じて、競争と機密性を考慮して、借り手が設定された SPT に到達する方法 	<p>d)-ii : DNV は、KPI のベースラインが 2019 年度の GHG 排出量(検証済み)であり、それが開示されていることを確認した。</p> <p>d)-iii : 現時点では GHG 算出方法は c)-i で定義されているが、DNV は、今後、再計算等が必要な事象が発生した場合は明電舎が適切に対処する計画があることを確認した。</p> <p>d)-iv : DNV は、明電舎がどのように SPT を達成するかについて、ウェブサイトを通じて開示していることを確認した(参考: SBT 認定取得に関連するプレスリリース)。</p>
<p>3</p>	<p>ローンの特性 Loan Characteristics</p> <p>a) 財務的/構造的な影響(Financial/Structural Impact)</p> <ul style="list-style-type: none"> i. SLL には、KPI が予め定義された SPT に到達するかどうかに基づいて、トリガー事象に関連する財務的および/または構造的な影響を含める必要がある。 <p>b) 予備の代替案 (Fallback Mechanism)</p> <ul style="list-style-type: none"> i. SPT を十分に計算または観察できない場合の予備の代替案について説明する必要がある。 ii. 借り手は、必要に応じて、潜在的に起こり得る例外的な事象を考慮することについて、ローンの文書に文言を含めることを検討することが可能である。 	<p>a)-i : DNV はアセスメントを通じて以下を確認した</p> <ul style="list-style-type: none"> • SPT 達成時には、外部評価機関から明電舎の積極的なサステナビリティ経営の取組を評価した意見書の発行が可能となる。 • 目標達成・未達時いずれの場合も、借入金利等の変動はない。 <p>b)-i : DNV は、アセスメントを通じて SPT の計算について過去実績および明電舎の取組状況から、現時点の計画では、予備の代替案を検討する必要性は小さいとする明電舎の判断が妥当であることを確認した。</p> <p>b)-ii : DNV は、例外的な事例として一般的に考えられる項目が生じた場合(事業計画の大幅な変更、COVID-19 の影響等)、明電舎が SMBC 及びシンジケート団に対して適時、適切な説明を行い、必要な場合には目標及び予備の代替案について再設定することを確認した。</p>
<p>4</p>	<p>レポートング Review</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 借り手は、下記に関して、公開し、すぐに利用でき、簡単にアクセスできるようにすべきである。 <ul style="list-style-type: none"> 1. 選択された KPI のパフォーマンスに関する最新情報(必要な場合はベースラインを含む) 2. SPT に対するパフォーマンスと関連する影響、及び影響が生じるタイミングローンの財務的および/または構造的な特性に対し概説する SPT に関連する検証/保証レポート 3. SPT の野心度合いを借り手が監視できるようにする情報 ii. レポートは、定期的に、少なくとも 1 年に 1 回、及びローンの財務的および/または構造的な特性の調整につながる SPT パフォーマンスの評価に関連する任意の日付/期間に公開されるべきである 	<p>i : DNV は、明電舎が明電舎レポート(統合報告書)、明電舎ウェブサイト(CSR・環境活動)で左記の内容について実行可能な範囲で開示することを確認した。</p> <p>ii : DNV は明電舎が上記報告書等で、少なくとも 1 年に 1 回、SPT パフォーマンスに関する情報(GHG 排出量)の開示を含めることを確認した。開示される情報には、評価を実施した日付/期間が含まれることを確認した。</p>
<p>5</p>	<p>検証 Verification</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 借り手は、少なくとも年に 1 回、各 SPT トリガー事象について、関連する専門知識を持つ資格のある外部レビューアによって、各 KPI の各 SPT に対するパフォーマンスに対して独立した検証を受けなければならない。 	<p>i : DNV は、SPT トリガー事象(GHG 排出総量)について、第三者検証を受け、その結果を公開することを確認した。</p>

ベースライン : ベースラインは、固定された基準値であり、SPTs の達成状況/パフォーマンス状況を測定するための比較対象値として使用されるものである。

ベンチマーク : ベンチマークは、パフォーマンスの測定または比較の際に使用可能な参照値である。

トリガー事象 : トリガー事象とは、KPI が事前に設定した SPT に達成したかどうかを観察した結果であり、ローンの財務的・構造的な特性の変化を引き起こす可能性がある。

検証 : 検証または認証は、通常、限定的または合理的保証の形式で、関連する専門的知見と資格を有する外部レビュー機関によって実施される(この報告書や一般的なローン実行前のセカンドパーティ・オピニオンとは異なる)。